

# KOKUSAI

★発行：国際運輸株式会社★

VOL. 22

## 「会長の意志を継いで」



代表取締役社長

前田和隆

久しぶりの社内報です。まずは社員  
の皆さんが日々の仕事に励んでいる  
ことに感謝を伝えたいと思います。本  
当にありがとうございます。

さて、昨年十一月十八日に会長が  
亡くなってから早いものでもう半年  
近くが経とうとしています。私自身は  
様々な後始末に翻弄されて大したこ  
とも出来ないままに時間だけが過ぎ  
たという思いですが、社葬も立派に出  
来ましたし、その後の社業も滞ること  
なく進んでいるのは皆さんの不断の  
努力のおかげと感謝に堪えません。

私にとっては優しい父親であり、  
尊敬する先輩でしたが、世間の大勢の  
皆様から「不世出の人」と言って頂け  
る会長は米軍の物流部から脱サラし  
一代で国際運輸を築き上げました。先

日解散をした配車センター協同組合  
を広田の地に立ち上げた時には、近  
くにある建物といえは当時隆盛を誇  
っていたアツギナイロンさんくらい  
なもので、周りは畑と湿地帯に囲ま  
れていて、現在の賑わいなど想像も  
出来ない僻地（へきち）でした。その後  
山あり谷ありの時代を経て約半世紀  
に渡り社業が繋がってきました。

そして創業当時から米軍中心で営  
んできたわが社の仕事の内容も近年  
では変化し、新たなお客様との取引  
が増えています。我が社は米軍の仕  
事に関する仕事のノウハウには長年  
培ってきたものがありますが、その  
他には特別な技術や特許を持つてい  
るわけではありません。それでもお  
客様からの信頼を得て仕事を続けて  
行けるのは、社員全員が知恵を出し  
合い、協力し合って様々な問題を乗  
り越えているからに他ありません。  
しかしそれだけの人材が集まったの  
は偶然ではなく「人を育てる」事が  
社風として定着しているからだと思  
います。これは一朝一夕には成しえ  
ないものですので、今後も最も大切  
にしなければならぬ事です。

創業者が亡くなり、組合からの脱  
却も果たした今、我が社は新たななる  
スタート地点に立ちました。これか  
ら多くの困難が待ち受ける時代で  
ある事は間違いありませんが、我々  
は亡き会長の遺志を受け継ぎ、お客  
様から必要とされる仕事を創出する  
事で信頼を得て、その成果として社  
員全員が豊かで幸せな生活をおくれ  
るよう知恵と力を出し合って如何な  
る状況にも対応していきましょう。  
皆さんの奮起を期待しています。



「  
会長の教え  
」専務取締役  
中園 嘉臣

平成 5 年頃だったでしょうか、会長と初めてお会いしたのは。ある保険会社の懇親会で、以前勤めていた会社の上司と一緒にでした。

あの頃も近年と何一つ変わらず、紳士でおしゃれなイメージでした。何となく気に入られ、年に 1 回位飲みましょと、夜の出会いしかありませんでした。ある時、会長からその時の上司と共に、トーカンマンションに誘われ、会長の手料理をごちそうになりました。美味しい肉とサラダを頂いた記憶があります。

紆余曲折があり、平成 10 年頃、私自身の転職の相談で会長にお会いしました。すると何というタイミングでしょう、前任の責任者の方が 70 歳を過ぎ、後任を探しているとの事。その後、一も二にもなく入社をお願いしました。

人の出会いも様々なものがあります。人生の転機はその人に数度訪れるとの事です。気付く時があれば、気付かず流されるケースが多いのではないのでしょうか。

会長から教えられた事は沢山ありますが、至ってシンプルなものばかりでした。当たり前を当たり前。あいさつはキチンとする。言葉使いは丁寧に。服装はキチンとする。入社当初より現在に至る迄、我々幹部は言い続けたつもりですが、時と共に、又、年令、役付と共に、言葉使いはぞんざいになりがちです。会長を見習って私自身も注意しなければ、と思います。

それと良く思いだすのは、朝、来社された時の会長の笑顔です。特に晩年、会議所の会頭を務めながら、嫌な事も多々あったと思いますが、朝、笑顔以外を見た事はありません。それを思いだす度に、私も見習わなければと反省しています。

思い出は尽きませんが、会長亡き今、その意志を引き継ぎ、やりがいのある魅力的な会社になるよう、尽力せねばと痛感しています。

「  
運を引き寄せる  
」

その昔、道元禪師という人は、二四才の時に道を求める為に海を渡り、中国(宋)の地を踏みました。そこで、様々な処に足を運びましたが、この程度なら日本にいても同じだと感じ、いよいよ日本へ帰ろうとした時、「今度天童山に入った如浄禪師という方は今までの方とは違う」と聞いて、騙されたつもりで一度会いに行きました。そうしてお会いした瞬間、「私の師はこの人だ」と感じたとの事。如浄禪師も方も「自分が求めていた弟子が来た」と思ったとの事です。

それからは同じ修行をするにも、スポンジが水を吸うように「すーといく」。それまでは、「何としてでも悟るんだ」と思っていたが、水車が水によって回っていたものが、水車が回って水を動かすような状態になったそうです。早くに解脱(げだつ)され、「お前さん、もう日本に帰っていいよ」と言われるまでになった。そうして道元禪師が日本へ帰国して一年もしない内に、如浄禪師は亡くなったそうです。何というタイミングでしょう。このタイミングのことを人は縁とか運と言ったりします。運又は縁は、求める気持ちの強さ、努力に応じて見つかるのではないのでしょうか。

「働くことについて」



取締役統括本部長  
萩坂 貴徳

皆さん、毎日のお仕事お疲れ様です。

皆さんのおかげで質の高い作業や、安全な運行が高いレベルで保たれていることに大変感謝しております。

実際にお客様からお叱りやご指摘を頂くこともありませんが、うれしいコメントも実に多く、お客様の中には、「我々の移動先にあなたの方の支店を作ってもらいたい。」等、運送屋冥利に尽きるほどのお言葉を頂戴することもあります。本当に皆さんのおかげだと深く感じております。

ところで、皆さんは毎日楽しく働かれていますでしょうか。

入社したての頃は緊張と新たな希望があり、技術の習得に

も意欲的なものです。しかし、時間が経ち仕事に慣れてくると、自分の損得を考えるようになり、初心というものを忘れがちになる。周囲の事より自分中心、時には自分の仕事どころか、お客様への気配りもおろそかになる事があり、たとえこの会社が自分に合う仕事であつても、もっと条件の良い会社があるのでは、等と、ついいい心に隙間が出来がちになります。そのような身が入っていない時にお客様からお叱りを受けるのかもしれない。

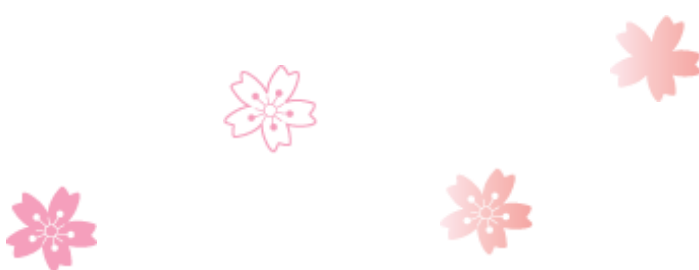
働くという語源は、「傍」はたを「楽」らしくにさせることから来ています。お客様や周囲の人たちの要望を察知して、そしてそれを手助けして喜んでもらう。人を喜ばせたいと思う気持ちは、誰でも自然に湧いてくるものです。

私たちは運送を生業としています。長年習得してきた技術を生かし、それを基にお客様から喜んでもらい、同僚の皆さんにもその喜びを感じてもらいたいと思っております。

(誰かのために何かをする)まず  
は目の前の人を楽にさせる行い

いが働くということであり、自身にとっても喜びになるのではないのでしょうか。

最後になりましたが、会長が病床で書かれた短冊を読まれたことがありと思いますが、私たち全員、会長のご遺志を継ぎ、国際運輸を力合わせて良い会社に育てていきましよう



「春の うららの 隅田川」という歌い出しで始まる「花」は、誰もが耳にしたことのある歌でしょう。「春うらら」とは、「空が晴れて、日が柔らかく、静かで穏やかな様子」を意味しており、日本の春の雰囲気を実によく表した言葉です。

四季がはっきりした自然環境の中で、先人たちは、季節から感じられる風情や趣を大切にしようとする心を育んできました。

美しい日本の言葉と共に、自らの心もまた、春のような柔らかくで穏やかにありたいものです。

(職場の教養より)



運輸部次長  
島内 貴之

今年の3月で、入社20年目も迎えました。この20年を振り返ってみると、20年前の自分より多少仕事も覚えて、精神面においても強くなったと思います。まだまだ努力しなければいけない部分もあり、お客様が困られた時に、一番目に連絡や相談をいただける様な存在になれるよう頑張っていきたいです。

これからも一意専心の気持ちで業務に邁進していきたいと思います。



運輸部主任  
楠本 啓一郎

体調を崩し長距離乗務員から離れ、事務所内の業務に就かせていただいて4年目に入りました。現在は配車業務を担当させていただいております。電話一本でのお客様対応、業務連絡、仕事のやり取り等行わせていただいておりますが、お客様、同業者に対しての言葉使いのミス、コミュニケーション不足、上司への報告、連絡ミス、乗務員の皆様への連絡不足、指示ミス、配車ミス、未だにミスの多い毎日を行っており、皆様に迷惑ばかりお掛けしております。誠に申し訳ありません。

人を動かす難しさ、コミュニケーションの取り方の難しさ、重要性等、日々勉強し、少しでも皆様のお役に立てる様、努力していきたいと思います。





運輸部  
鴻巣 勉

昨年の3月12日に入社して、早いもので1年が経ちました。ここに来るまで転職を重ねてずいぶん回り道をして来ました。いろんな職場などで経験を積んできたので、そのスキルを生かしつつ今後の仕事にも繁栄できるのではないかと考えています。

地理的には全国各地を経験はありますが、今年からは大型自動車免許を取得して幅広く活躍でき貢献できればと思っています。今ちょっと足踏み状態ですけど。。

世の中の現状では、ドライバー不足で自分も入社までにあちこちからお誘いはありました。この年齢になって大変嬉しい事ではありましたが、それも断り、佐世保を中心として活躍中で有名なギタリスト M 氏に相談したところで、入社に結び着いた訳ですけどね。今では感謝しています。これからも、こんなに素晴らしく親切で楽しい同僚に恵まれ、自分も良きムードメーカー的な存在で居られるように仕事にも精進していく次第です。時には梱包部の皆様、メインは運輸部として、これからもどうぞよろしくお願ひします。



運輸部  
江藤 良一

国際運輸に入社して一年半になります。

入社当時は、運輸業は初めてで、作業内容、用語等、覚えることばかりで大変でしたが、職場の先輩方の指導と励ましで、今では業務に慣れて来たところです。

業務は、まだまだ覚えることばかりで悪戦苦闘の日々ですが、経験は積み重ねだと思しますので、これからも与えられた業務を安全に、確実に、実施できるように頑張っていきたいと思ひます。これからも宜しくお願ひ致します。



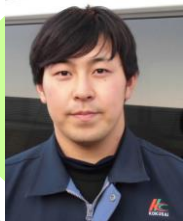


運輸部  
森 博文

### 「 国際運輸に入社して 」

平成 30 年 9 月 30 日に海上自衛隊を定年退職し、翌日の 10 月 1 日から国際運輸に再就職して、早いもので 6 ヶ月が過ぎようとしています。それまでは、自衛隊で海上勤務がほとんどで、車の運転をするのは年に数えるほどしかしていなく、あまり自信があるほうではありませんでした。ましてやマニュアル車を運転するのは自動車学校以来だったため、最初非常に緊張したのを今でも覚えています。

国際運輸に入社して、諸先輩方や上司にいろいろな教育や指導を受け、また、様々な体験談、失敗談を聞かせて頂き、今では最初ほどの緊張はしなくなり、運転をちょっと楽しむことが出来るようになりました。まだまだ未熟なため、大変なご迷惑をお掛けするかもしれませんが、誠心誠意、一生懸命頑張りますので、これからも今まで同様ご指導をよろしくお願い致します。



梱包部  
野村 拓矢

平成 30 年 4 月 9 日付けで梱包部に配属になりました、佐世保市出身の野村拓矢です。前職は、海上自衛隊で通信員として所属していました。子供のころからバレーボールが好きで、10 年間ほどバレーボールを習っていました。

最近では、高校の同級生と社会人のチームを作って活動しています。バレーボールで身につけた根性で、お客様に安心・納得されるサービスをできる社員を目指しています。また、一緒にスポーツできる仲間を会社で見つけないと思っています。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。





梱包部  
福島 譲

私が国際運輸に入社して約1年が経とうとしています。私は国際運輸が初めての職場で最初は何も分からなく、先輩方に多大な迷惑をお掛けしました。そのような状況でも優しく教えてくださり、また間違っている事はしっかり言って頂き、仕事以外の面でもすごく勉強になっています。だから私は仕事を楽しく続けられていると思えました。

今では、だいぶ仕事内容も分かってきて自分で分かる事は言われる前から動くという事を心掛けて作業をしています。これからは自分の事だけでなく、お客様の気配りを忘れず満足の頂ける仕事をしたいと思えます。

まだまだ分からない所もたくさんありますが、精一杯頑張りますので、是非応援の方よろしくお願ひします。



梱包部  
藤木 千春

私が梱包部に入社して、早いもので2年が経ちました。正直、いつの間にそんなに月日が経っていたのだろうと思うほど、一日一日があっという間に過ぎていました。

入社した始めの頃は、ほとんどが初めて目にするものや今までに聞いたことのない言葉ばかりで、それらにまず慣れるのも一苦労でしたが、こうやっていまだに勤められるのも一緒に働く上司や同僚のおかげです。

どんなに忙しい時でも、分からないところがあれば指導して頂き何度も助けられてきたのおかげで今の私が出来上がってきたのだと思えます。

これから、米軍の引っ越しがピークを迎えます。今まで以上にお互いコミュニケーションを取り合いながら、大きなミスをしないう様に気を付けて取り組んでいこうと思えます。





梱包部  
千布 花織

入社して3カ月が経ちました。

今までやってきた仕事と全く違う仕事内容や知らない言葉に戸惑いや不安を抱えながら、毎日があっという間に過ぎていきます。

入社して一番驚いたのは、一緒に働かせて頂いているみなさんの個々の能力の高さです。忙しい業務の中、日本語と英語を使い分けながら着々と業務をこなしていく姿はとてもカッコよく、いつか私もみなさんみたいになりたいなあと思います。

今はまだみなさんの力をお借りしながら、毎日の業務を行っていますが、一日も早くみなさんの力になれるように、一日一日頑張っていきたいと思えます。



### ◎ 編集後記 ◎

新しい元号が「令和」と発表され、いよいよ新しい時代が始まります。それにより様々な事が変更され、それに対応するためにしばらくは慌ただしくなることでしょう。ただ、何気にワクワクしているのも確かです。

「令和」が引き続き平和な時代であることを願っています。自然災害は避けられないことではありますが、さらなる技術の進歩により予測が迅速に伝達され、被害が少しでも小さくなることを期待しています。

来年は東京オリンピックです！ まだ少しピンとは来ていませんが、日本中が歓喜にあふれることでしょう。また、海外の方々が日本で楽しい時間を過ごされるといいなと思います。

時代は変わっても自分の考えをしっかり持ち、新しいことに適応しながら日々を過ごしていきたいものです。 (編集部)

